浜松 みなみ
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

生徒会動き出す

自分のできる範囲内で

――生徒諸君の協力を望む――

生徒会長　栗山　聡

去る三月二、二日の両日にわたつて行なわれ、六日に合格者が発表された高等学校入学試験によつて、昭和四十年度に入学する新一年生が決定した。われわれは、新たに四百五十余名の新入生を迎えることになるのである。そして念願だつた三学年がここに成立する。千四百名に近い生徒が一堂に会することができるのはもうしばらくのことだ。

ここで、私は昭和四十年度の前期生徒会長としての抱負を述べてみたい。会長に就任以来、すでに三ケ月に近い日が経つたが、生徒会の仕事をやつてみて痛感したことは、生徒会を動かして行くには「会員である生徒諸君の協力が得られなければだめだ。」ということだ。「自分達ひとり一人が生徒会の会員なのだ。」ということを自覚してもらいたい。そして生徒会は、「自分達のものなのだ。」ということを現在の生徒会本部と、生徒との間はあまりにも離れすぎている感じがする。そこで、私は、その離間を防ぎ、ひいては生徒諸君の生徒会への関心を強くもつてもらうために、次のことを具体的な仕事としてやつてみたい。

先ず第一は、公約にかかげた、「清掃美化」ということである。本校は、校舎が新しく美しい清潔さを保ち得ている。しかし、この新しい美しい校舎も、次第にあたりまえの校舎になつてしまうかも知れない。つまり、ゴミだらけの汚い校舎に。しかし、その前にわれわれとしては何らかの手を打ちたい。いつまでも美しくあるように。また、「清掃美化」の一環として内庭の花壇造成にも力をいれたい。いくら、まわりを田畑に取り巻かれているからといつても、校庭に緑が無いのはいかにも寂しい。学校側の庭園造成と歩調を合せながら、われわれの手で出来る事をやつて行きたい。其の他、新入生を迎えるまでに自転車置場にラインを引いて、四月からしつかり整頓できるようにして行きたい。

次に、バスの乗車整理も、生徒会の手でやつてみたい。過去一年間、先生方の手によつて乗車整理をやつてもらつていたのだが、自分達がバスを利用しているのだから、自分達の手でやりたい。これはきつとできるはずだし、やらなくてはいけないと思う。これからは、自分達でできることは自分達でやつて行くのだ。

第三に、先生方と生徒との話し合いの場を、積極的に作つて行くようにしたい。本校は、先生方と生徒諸君待望の体育館兼講堂の着工が近づいた。そこで、われわれ新聞部員は、校長先生に、直接体育館建築についてお伺いしてみたところ、次のようなことがはつきりした。

まず、体育館建築場所は、南校舎の東側で、校舎と体育館を廊下で連絡出来るように設計されている。

次に体育館の型だが、体育館建築にあたつては、県の規定でA・B・C型に分かれており、本校は体育館C型を建築する予定になつている。体育館C型は、生徒収容数九百人以上の学校に建てられるもので、この型の中では最大の体育館である。この型は、磐田南高等学校の体育館に似ている。

面積は、一階……三五一坪。二階……五三坪。延面積四百四坪である。なお、一階はステージはもちろんのことであるが、バスケットコート二面がとれるように工夫されている。

また、講堂にした場合、生徒収容数は約千五百名である。

工費は、体育館の本体だけで、約三千万円、それに附属設備を含めて、約四千万円の予定である。着工は、早くとの四月から、完成は十一月に予定されている。

なお、体育館完成にともない、体育準備室の移動が決まつている。また、南校舎二階の集会室は、商業実践室になる予定である。

最後に、校長先生は、「生徒諸君の協力を切に望む。」とつけ加えられた。

特別教室転用も

本校は、来年度新入生を迎えると全学年がそろい、それに伴なつて、普通教室も九教室ふえて、十一教室になる。従つて、普通教室の不足分は特別教室をあてることになつている。

次に転用される特別教室をあげる。

北校舎
一階　一号室・卓球二号室
・卓球三号室・体育準備一パン購買室。
四階　社会科教室。
南校舎
一階　書道室・美術室・三号室
二階　四号室

なお、体育準備室は、体育館の完成するまで、現在の体育器具室に移動、パン購買については、廊下に各クラスの棚をもうける予定である。

自転車置場については、来年度は収容台数がふえるので、自転車置場を九つのブロックに分け、各学年別に整理されるように生徒会の方で計画を進めている。

待望の体育館兼講堂　着工迫る！

上級生としての誇りと自覚を

新入生を迎えるに当って

……去る三月六日に新入生の合格発表が行なわれたが、本校はこの新入生を迎えると、全学年がそろうことになる。そこで南校の現在の状態から、校風、クラブ活動、生徒会活動、学校内庭、……そして新入生を迎えるに当つての在校生の心構え等を先生並びに生徒代表と話し合つていた。……

……いた。出席者は、橋口先生、生徒会より三浦博史君、校村一男君、鈴木徳美さん、一年生は本谷……元久君と石津隆代さん、二年生は、原田光男君、それに新聞部として、部長以下六名でした。……

司会　本校の校風をどのように思つていますか。

A　生徒同志で意見を持ち合い、悪い点を直し、そしてその態度を続ければ自然と学校が良くなり校風も生まれ、伝統も出来ると思います。

先生　校風は無理につくろうと思つてもつくれるものではない。生徒皆が一つの方向に向かつて努力して行つたそのものを、はたから見て校風と言うんです。新しい学校としては何かをつくろうとすると、何かを目指すことがあればそれに肉をつけようとして活動した足跡が校風と言われるものなんです。

D　南校では先輩と先生との間の隔たりというものが無いと、よく友達から言われますけれど、それがある意味での校風で、良い校風であると私は思います。

司会　そのようないい点をこれからも伸ばしていつてもらいたいものです。

校風

F　運動クラブは真っ剣に活動しているのがわかるのですが、文化クラブはどのような事をしているのかわかりません。

B　クラブ活動というものは、私達高校生にとつて最も重要なオアシスだと思います。将来、高校を卒業してから思い出すのは勉強したと言うことでなく、クラブ活動を良くやつたと言うことだと思います。他のクラブの状態がわからないと言うことについては、クラブ間の交流をしたらよいと思います。

先生　また本校では、クラブ活動そのものに対する気持ちを持つている人が少ないですね。一年生になつて、もう勉強も始めなければいけないなと言うような気持からクラブを免除して欲しいと言うことを考え始めている人が出て来ているんですね。

司会　クラブ活動と勉強を両立させるということについてはどうですか。

D　運動と勉強を両立させることは、やろうと思えば出来るのではないでしょうか。頭から両立できないと考えもろうとしない人が多いのではないかと思います。立派に両立させている人もいるんですから、先輩両立させるよう努力すべきだと思います。

F　文化系のクラブにあつては、間違いないと思いますね。クラブで遊べなつて勉強できないなんてことはないと思います。むしろ好きで打ち込んでいるんですから。

司会　要するに両立できるということなんですね。

クラブ活動

司会　では次にクラブ活動についてどのように思いますか。

F　運動クラブは真っ剣に活動しているのがわかるのですが、文化クラブはどのような事をしているのかわかりません。

B　クラブ活動というものは、私達高校生にとつて最も重要なオアシスだと思います。将来、高校を卒業してから思い出すのは勉強したと言うことでなく、クラブ活動を良くやつたと言うことだと思います。他のクラブの状態がわからないと言うことについては、クラブ間の交流をしたらよいと思います。

先生　また本校では、クラブ活動そのものに対する気持ちを持つている人が少ないですね。一年生になつて、もう勉強も始めなければいけないなと言うような気持からクラブを免除して欲しいと言うことを考え始めている人が出て来ているんですね。

A　私達には、生徒会というものがそんなに身近に感じられないことが、二と思われるようなことばかりかも知れない。あるいは、「これが生徒会の仕事なのか。」と思われるかも知れない。しかし私は、夢ばかり食つているバクにはなりたくない。自分の出来る範囲の中で、自分の力を最大に発揮したいのだ。生徒会と会員との間は、かけ離れて離れるものではない。実践の行動が会員の共感を呼ぶものと思う。多分、この三点が果たされた時、少くとも、現在よりは、生徒会と会員との間は接つているに違いないと確信する。

生徒会活動

司会　話変わりますけれども、現在の生徒会活動というものに対してどのようにお考えでしょうか。

F　私達の見ている範囲では余り目立ちませんが、会議をする時には前もつて内容について生徒に考えさせてもらつてからにしたらよいと思います。

C　僕達生徒会活動というものについては余り知りませんが、目立たないけれども案外重要で、縁の下の力持ちのような感じですね。りつぱな行事とか、会が出来るようになることが生徒会がよくなる第一歩だと思います。

司会　生徒会活動というものは、生徒会というものが、どこかに消えてしまう。一夜漬けの試験勉強はみごと失敗に終つてしまうのである。これでは何もならない。心当りの人、長い人生試験はまだまだ続く。「試験が無ければ楽しい高校生活」などと愚痴をこぼさず、毎日地道にゆこう。そうすれば遅刻もなくなり成績もよる。

一百一高ではないか！。もしいや気持をすれば、難関を突破して我が校に入学した新入生に笑われてしまいますよ。

司会　いろいろお話をうかがつていると南校は、校風もきつつありますし、クラブの方面でも徐々にそれはありますが充実しているようです。また生徒会活動の方も、地道に努力を続けていますし、今のところ非常にうまくいつていると思うんです。そして南校が未来に向かつてはばたくために、来年度こそはもつと努力すべきだと思うのです。

最後に、新入生を迎えるに当つての上級生としての誇りと自覚を出陽ぎ上としての心構えを述べて下さい。

C　上級生としての誇りと自覚は、まず、新入生に対して誇れる上級生であるのなら、まず何物にも負けないそして前へ前へと突き進む不屈の闘魂が整備され――と外的に運動場が整備され――と外的には恵まれているものの、それに伴う内容、すなわちわれわれ自身はまだまだと言える。それ故われわれには開拓の精神が要求されるのである。

最近の学生評――「近頃の学生は意気地がない。根性にかけとる。わしらの学生時代は皆それぞれが向学心に燃え、大きな夢を持つていた。大きな問題点にぶつかつても、それに打ち勝つ気力にあふれていたものだ。それに比べると今の学生は…」よくこんな言葉を耳にする。たしかに言えることである。学生数が急激に増加し、高等学校が義務教育化されたような現在、昔のように若い情熱を燃学の道ひとすじにかけるような若者が少くなつたことはかくせない事実であり、同時にさびしく思われてならない。なにか一本しんが欠けているように思えるのだ。いくら世の中が進歩し、学生がスマートになつたとはいえ、考え直す必要があるのではなかろうか。学問の道はかりでなく、常に一歩前進した考えと行動が要求される今日である。二十世紀も半ばを過ぎ、やがて二十一世紀に向かつてのひて行こうとするわれわれ、今や次代に向かつて開拓を始めたのである。

わが南高校の歴史、まだ花開く以前のつぼみであり、広大な荒れ地にくわを入れたばかりの段階といえる。この荒れ地を開拓するには長い年月と苦労がいる。到底一年や二年でできるものではないのだ。しかし、たとえ何年かかろうとも、この荒れ地を作物のみのる地にしなくてはならない。そのためにはわれわれが奮起しなくては、開拓の精神を持つて。

四月に入学する新入生、はたしてどんな新入生であろう。何物にもくじけない強固な意志の持主であるだろうか。いずれにしてもすぐにはつきりすることであるが。

ここで新入生を迎えるにあたつて考えなくてはならないことがある。それはわれわれが新入生に対して誇れる上級生であるだろうか、ということだ。結論をだすことは非常にむずかしいが、われわれが誇れる上級生を自指して努力していると思われるかも知れないが。しかし私は、夢ばかり食つているバクにはなりたくない。自分の出来る範囲の中で、自分の力を最大に発揮したいのだ。生徒会と会員との間は、かけ離れて離れるものではない。実践の行動が会員の共感を呼ぶものと思う。多分、この三点が果たされた時、少くとも、現在よりは、生徒会と会員との間は接つているに違いないと確信する。

常に一歩前進を

メガネは
吉田屋
浜松駅前広小路
TEL ② 2846 9204

写真説明

副会長　小柳敏次　書記　鈴木徳美
会長　栗山聡　会計　中村ひろ子
書記　坂井安吉　会計　真田千代子

本校の施設

司会　南校の施設についてどう思いますか。

C　僕は非常に便利で、必要以上にそろつていると思います。

F　教室は常に清潔で、うしかないなと思うんですね。常に清潔で、うしかれられないなと思うんですね。

先生　付けるときにはなつているんですが、費用の面で付けるのを抑えているんです。

C　雨の日など不便ですから、なるべく早く付けてもらいたいと思います。

D　今、花壇を造つているようですけれど、これも一刻も早く造つていただいて、新入生を迎える頃には、校舎を緑の赤で飾りたいものです。

B　生徒会としても、花壇の造成には、「清掃美化」の一環として力を入れて行きたいと思います。

先生　しかし、花壇造成は、先生方が、費用の面で出すのだから、なるべく早く付けてもらいたいと思います。

司会　何か生徒会に対して意見がありましたら、何でもいいですから述べてください。

E　代議員会をもつと開いて、この学校についてのことをいろいろ審議してもらいたいと思います。

司会　先生方の方から御意見についてかがいたいと思います。

先生　生徒会というものは余り口に出すと動いていると言うのは正常でないと思うんですよね。聚する余の派手に、まだ自信を感じてやる必要はないかいかないかと思いますがね。

司会　先生方の方から御意見についてかがいたいと思います。

先生　生徒会というものは余り口に出すと動いていると言うのは正常でないと思うんですよね。聚する余の派手に、まだ自信を感じてやる必要はないかいかないかと思いますがね。

司会　何か生徒会に対して意見がありましたら、何でもいいですから述べてください。

E　代議員会をもつと開いて、この学校についてのことをいろいろ審議してもらいたいと思います。

司会　先生方の方から御意見についてかがいたいと思います。

先生　生徒会というものは余り口に出すと動いていると言うのは正常でないと思うんですよね。聚する余の派手に、まだ自信を感じてやる必要はないかいかないかと思いますがね。

司会　何か生徒会に対して意見がありましたら、何でもいいですから述べてください。

E　代議員会をもつと開いて、この学校についてのことをいろいろ審議してもらいたいと思います。

司会　いろいろ話をうかがつていると南校は、校風もきつつありますし、クラブの方面でも徐々にそれはありますが充実しているようです。また生徒会活動の方も、地道に努力を続けていますし、今のところ非常にうまくいつていると思うんです。そして南校が未来に向かつてはばたくために、来年度こそはもつと努力すべきだと思うのです。

最後に、新入生を迎えるに当つての上級生としての誇りと自覚を出陽ぎ上としての心構えを述べて下さい。

C　上級生としての誇りと自覚は、まず、新入生に対して誇れる上級生であるのなら、まず何物にも負けないそして前へ前へと突き進む不屈の闘魂が整備され――と外的に運動場が整備され――と外的には恵まれているものの、それに伴う内容、すなわちわれわれ自身はまだまだと言える。それ故われわれには開拓の精神が要求されるのである。

最近の学生評――「近頃の学生は意気地がない。根性にかけとる。わしらの学生時代は皆それぞれが向学心に燃え、大きな夢を持つていた。大きな問題点にぶつかつても、それに打ち勝つ気力にあふれていたものだ。それに比べると今の学生は…」よくこんな言葉を耳にする。たしかに言えることである。学生数が急激に増加し、高等学校が義務教育化されたような現在、昔のように若い情熱を燃学の道ひとすじにかけるような若者が少くなつたことはかくせない事実であり、同時にさびしく思われてならない。なにか一本しんが欠けているように思えるのだ。いくら世の中が進歩し、学生がスマートになつたとはいえ、考え直す必要があるのではなかろうか。学問の道はかりでなく、常に一歩前進した考えと行動が要求される今日である。二十世紀も半ばを過ぎ、やがて二十一世紀に向かつてのひて行こうとするわれわれ、今や次代に向かつて開拓を始めたのである。

わが南高校の歴史、まだ花開く以前のつぼみであり、広大な荒れ地にくわを入れたばかりの段階といえる。この荒れ地を開拓するには長い年月と苦労がいる。到底一年や二年でできるものではないのだ。しかし、たとえ何年かかろうとも、この荒れ地を作物のみのる地にしなくてはならない。そのためにはわれわれが奮起しなくては、開拓の精神を持つて。

四月に入学する新入生、はたしてどんな新入生であろう。何物にもくじけない強固な意志の持主であるだろうか。いずれにしてもすぐにはつきりすることであるが。

ここで新入生を迎えるに当つて考えなくてはならないことがある。それはわれわれが新入生に対して誇れる上級生であるだろうか、ということだ。結論をだすことは非常にむずかしいが、われわれが誇れる上級生を自指して努力していると思われるかも知れないが。しかし私は、夢ばかり食つているバクにはなりたくない。自分の出来る範囲の中で、自分の力を最大に発揮したいのだ。生徒会と会員との間は、かけ離れて離れるものではない。実践の行動が会員の共感を呼ぶものと思う。多分、この三点が果たされた時、少くとも、現在よりは、生徒会と会員との間は接つているに違いないと確信する。

態度で示そう

今度の一年生にもそう言う気持ちを持つたいので、それについては上級生が言葉で言うより手行動で示した方が良いから行動の面に気を配つていきたいと思います。

司会　態度で示そう！と言うことですね。一年生は、きつと希望に胸をふくらませて入校して来ることと思いますから、その期待を裏切らないような上級生になりたいと言うことですね。

E　今までわれわれがなつて来た道を振り返つてもらつて、そこから、これからの南校について、一年生に考えていつてもらいたいと思います。

A　とにかく、愉快に楽しくやつてきたいですね。全体が二つの家族になるように。

司会　きょうは、いろいろありがとうございました。

新進気鋭の先生方十余名も

四月から、新たに本校へ十数名の先生方が来られる。大学新卒の先生方が十名ほどと、他校から転任の先生方が五、六名内外だそうである。昨年度も十数名の先生方が来られ、しかも新進気鋭の先生方ばかりで、我々生徒は頭分刺激されたわけであるが、新年度からは更に若々しい先生方を迎えることは、我々としても大いにうれしいことである。我々も新学期から張り切つて行こう。

あこがれの高校生活へ

昭和四〇年度　合格発表

去る三月一、二日の両日にわたつて行なわれた昭和四〇年度静岡県立高等学校入学試験の合格者が三月六日発表された。本校の合格者は、普通科一五八名（女子三五名）・商業科一〇一名であつた。

この日は朝から風が強く肌寒い日であつたが、発表一時間前頃から受験者、父兄及び各中学校の先生方などが心配そうな面持ちで発表を待つていた。合格者が発表されると、真剣なまなざしで自分の名前をさがしていた。

「あつた！あつた！」と感激している光景も見られた。今までの努力の成果をアルバムに納めようと、自分の名前の前で記念写真をとる親子連れ、伝言電で合格を知らせる人……。その表情は明るく、苦しみを一掃し抜いた満足感と喜びに溢れていた。あと二つ日余りで、さようなら高校生活ヘスタートしようとする彼等の胸の中には、大きな希望と燃える闘志があふれているに違いない。

われわれ在校生は、彼等の可能性に期待しようではないか！

喜びの合格発表

遠州灘

冬の寒風、遠州名物からつ風も春の女神にバトンを渡し、うららかな日々が続く今日この頃。

春の陽気に伴い、遅刻常習犯諸君も「あと五分……あと二分……あと十秒」に業からそろそろ脱出したらしく、タクシーに乗つて来る者も、大部少なくなつたようす。ふところもさ春の日のごとく暖かくなつたことだろう。「早起きは三文の徳」とはよくいつたもの、が、反面タクシー会社は不景気が訪れたと嘆いているとか（？！？）

ところで「遅刻をするな！」と言われてなお遅刻する反逆児（？）達。おれたちや反抗期だからなとでも思つているのだろうか。しかし諸君ノ見慣れたろうが今二度自分の顔をじつくり見てみたまえ少なくとも八割の人は青春のシンボルに悩んでいるはず、それでいて反抗期とは……。その反逆児達のために遅刻の原因を探つてみよう。大部分の人は、おそくまで勉学に励み時計の針がかち合う頃床に着く、それでつい……。と思うが、次のような事かもわからない。

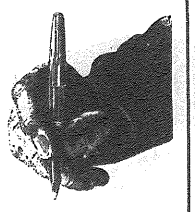
朝、諸君のパリッとした姿を見て寝すきためあわてて登校したとは思われない。とすると、おしゃれ、いや身だしなみに費す時間が多すぎるのでは？

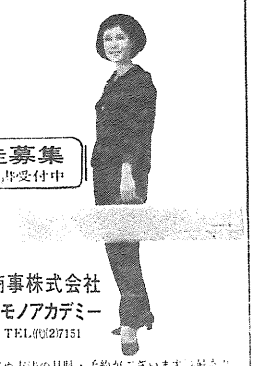
おしゃれといえば、むかしは女の人のするものだつたが、近頃は男性のおしゃれ熱がすさまじい。もちろん個性あふれたおしゃれは、見ていて気持ちのいいものだが、だれもかれも同じようなおしゃれをするのはどんなものだろうか。ちつとも個性が生きていないではないか。みんな同じ。幸田文のいう、人の胸にかつきりと焼きつけるようなおしゃれなどいかがだろう。それは、単に外面的なものではないか。むしろ、内面的なものではなかつたか。

そこで、先の勉強のことだが、おそくまで勉強するのは試験のためとみえて試験となればねじり鉢巻きで徹夜。徹夜なら栄養を取らなければと、用意しておいたクーメンをすする。体が疲まり胃袋がいつぱいになると眠たくなるのは誰でも同じ、上下のまぶたが講和条約を結ぼうとする。なるがままにしておきたいのだが、眠たい自分に鞭打つて再び机を前にする。翌日、いざ解答用紙が配られるとたんに暗記しておいた事のものが、どこかに消えてしまう。一夜漬けの試験勉強はみごと失敗に終つてしまうのである。これでは何もならない。心当りの人、長い人生試験はまだまだ続く。「試験が無ければ楽しい高校生活」などと愚痴をこぼさず、毎日地道にゆこう。そうすれば遅刻もなくなり成績もよる。

一百一高ではないか！。もしいや気持をすれば、難関を突破して我が校に入学した新入生に笑われてしまいますよ。

写真 なら 進んだ技術と設備 カメラ・DPE・カラープリントの
内山カメラ店
浜松市鍛冶町　TEL ② 5069

ご入学 ご卒業 おめでとう！

世界の最高級万年筆
川井屋
浜松ショッピングセンター　TEL 2 9418
浜松市有楽街　TEL 3 9287

ご卒業祝 3つのおたのしみ期間中
昭和40年5月末日まで現金・時払・月賦・予約でご購入ください
上たちに3つのおたのしみ賞品の進呈がございます！！
編機は アルス
《業界唯一の連続2回発明賞に輝く》

生徒募集 頭書受付中
アルス商事株式会社
アルスアミモノアカデミー
浜松・元城　TEL(0)27151
便利なお求め方法の月賦・予約がございます。最寄りアルス編機取扱店並びに直営教室をご利用ください。

製服製造・販売
栗林株式会社
旧名 東海衣料株式会社
工場 営業所　浜松市下池川町 TEL 代(71)7295

読書による日々の糧
高一コース
高二コース
大学進学コース
新刊書籍
雑誌
市内大工町142
三省堂書店
Tel ② 1450・8501

●皆様の指定店
製靴は
ワシントン靴店で
浜松　有楽街店 2 4913・有楽街北店 3 9635
カジ町店 2 2022・マルサ店 3 8115

陸上部本領発揮

第二回　マラソン大会

・月六日（土）第二回校内マラソン大会が行われた。

この日は、朝方は大分冷え込みが厳しかったけれど、日が高くなるにつれて暖かくなり、上々のコンディションであった。それでも出発前には、寒い寒いを連発する弱虫連中もいた。

コースは、男子が南校を大きく一回りする二万二百メートル、女子はその三分の一の三千三百メートル。先生方の中には、またまた若い者には負けないぞと言って張り切っていた先生もおられた。

マラソンは、持久性と耐久力を要求される非常に苦しいものだが、その苦しみを克服してゴールにかけ込んだ時には、きっと何かが、自分の心にプラスされているに違いない。

出発前のあの独特の雰囲気の中で準備体操が行われ、足ならしをする。十時少し前、校長先生のピストルの合図で女子が一斉にスタートする。男子からはいつせいに声援がわきあがる。さらに五分遅れて男子がスタート。スタートしてからは、各自自分のペースで走る。男子の速いものは、途中で女子を追い抜いて行く。追い抜くというのは快的だ。しかも女子の中をかけ抜けて行くのだから。やがて女子は、校庭のゴールに向かう。ええいままいしと思いながら、男子はさらに走り続ける。まだ三分の一しか走っていないのかと思うと、やたらに腹が立つ。自分の気持ちをまぎらわそうとするのか、やたらに人に話しかける人もいる。あるいは、仲の良い同志が示し合わせて同じピッチで走って行く。要所要所に、先生方と体の調子の思わしくない生徒が見張りに立っている。零下5度の中で、足ならしをしているうち、南アルプスが雪を頂にのせているのが見える。美しい、前景の冬枯れの畑もいい。風が、向かい風になる。日本の陸上選手はよく、向かい風だったから記録はだめだった、と言ったものだ。しかし、オリンピックの日メートルは、イメイに上って見える。見ている人がいると思うと、九千九百メートル走って来た疲れがすっとぶのは不思議なものだ。足どりが大きく見えてくる。あとのくらい、と見張りに聞く、またまた二千メートルはある、とぼやき。そんなにあってたまるか、あと、五百メートルというところまで来て、ようやく、ゴールへ。

かくして、マラソン大会は、幕を閉じた。一名の落伍者もなかった。三人の先生方も、走り抜いた。

第一回校内カルタ大会は去る十月十六日より三日間にわたり、放課後を利用して行われた。各HRより選手二名が出場。トーナメント形式、日本カルタ連盟ルールで行なわれた。

予選は十六日、十二会場で行われ、中でも職員チームの強さが目立った。

翌日、勝ち残った六組で準々決勝が行われた。会場を本部へ移され、豊の上で行つたせいかカルタ大会らしい雰囲気になった。

準決勝は、十六HR対十二HR、十二HR対十九HRで、争われた。十三HRは十九HRに敗れて、十二HRと十九HRの対戦では、最後の一枚まで余断を許さなかったが、十三HRが逆転勝ちした。

十九日、いよいよ決勝戦。読み手は準決勝から引き続き川福先生。準決勝の時はこの緊張感はなく、同チームとも、落ち着いた気持ちで臨んだ。二十三HRはチームワークと作戦のよさによって、十九枚の差で十二HRを破り、優勝を遂げた。

この三日間を通して感じられたことは、各クラスの応援がかなり迫力のあるカルタ大会であったこと、予選は各教室の机上で行ったためか、ムードに欠けていたことなどである。

来年は三学年がそろい、今年以上の熱戦がくりひろげられることを期待する。そして、この大会を本校の伝統として行こうではないか？

第一回校内カルタ大会

力走する若人／　男子5km付近

■男子上位入賞者

一位	13HR大草立義	37分55秒	
二位	27HR天野敬行	38分50秒	
三位	22HR辻　晶	38分54秒	
四位	15HR見城良二	39分35秒	
五位	21HR三浦博史	39分40秒	
六位	22HR植田哲生	39分44秒	

■女子上位入賞者

一位	16HR中山早子	13分53秒
二位	28HR角田澄子	13分54秒
三位	13HR池戸ひろみ	14分10秒
四位	18HR佐野律子	14分10秒
五位	26HR稲木加代子	14分15秒
六位	16HR横井秀子	14分16秒

一位は女子が独占

第二回校内弁論大会

第二回弁論大会は去る一月二十七日、一年生は年前、一年生は年後に分かれて集会室で行なわれた。

弁士が登場すると、今までざわめいていた聴衆者は静まって、大会気分が盛り上ってきた。さすがは各ホームルームの代表だけあって、いづれ劣らぬ熱弁を聞かせてくれた。これに応えるように、聴衆者からも、拍手がわきあがって、二つ以上の事をテーマに取り上げ自分あるいは社会人に対し、世に前向きの姿勢で、立ち向かおうとする心構えを見せてくれた人が多かった。

弁論終了後、会場後方に陣取っていた先生八名、生徒一名の審査員の慎重な審査の結果、一年の部一位「母親の存在とその力」と題した三年ホームルームの杉山みやすさん。一位「就職に当たって」の湯野欣者君、三位「若いと言う事」の長谷川憲夫君。一年の部では一位「私の願う事」と題した十八ホームルームの鈴木みゆきさん。二位「定時制高校に学ぶ」の輕本里二君、三位「高校生の持つべきもの」の岩井洋子さんがそれぞれ入賞した。

審査委員長の鈴木正夫先生は講評の中で、昨年より一段と飛躍していたのは諸君の成長ぶりを示すもので、嬉しかった。特に、自分の生活の中からテーマを見付けて、それを発表した人が多かったのはよかった。」と言っておられた。なお、審査基準は満点50点、音量25点、態度25点の計百点。制限時間は5分～7分であった。

熱弁をふるう鈴木さん

赤緑色盲

堀内泰蔵先生

毎年大学入試の接近する時期になると、色盲をなげく声をよく耳にする。実際、理工科系では色盲で受験することは極めて不利である場合があり、時には合否に関係する大学さえあるようである。そして色盲には赤緑色盲が圧倒的に多く、又伴性劣性遺伝として、女子よりも男子に多くあらわれることもよく知られている事実である。

然し問題にしなければならないのは、何も医学上の先天的色盲ばかりではない。今日の社会においては、いわば社会性色盲ともいうべき後天的色盲の横行こそ重大問題であると考える次第である。凡そ今日の正常な社会人で、信号灯の「赤」が「正れ」を意味し、「青」が「進め」を意味するということを知らない者は恐らく皆無であろう。してみれば、我々が毎日経験する交叉点での信号無視は、正に社会性赤緑色盲患者でなくて何であろうか。皮肉なことには、伴性劣性遺伝をする患者そのものである。而もそのまんえん振りは医学上の色盲の比ではなく、又そのために社会の蒙る被害もはるかに莫大である。先天的色盲もさることながら、我々はこの後天的色盲にこそもっと関心を払わなければならないのではなかろうか。

一体、人間が集団をなして生活する時、交通信号のように、個人の自由が若干の制約を受けて始めてその集団社会体の利益が確保され、社会秩序が保たれる。そして又それによって個人の自由が保証されるという方式は、民主主義社会成立の基礎的条件として一般に承認されている所ではないだろうか。このように、社会を構成するものが単に知識のみを尊重する上すべりに終っていたことに基因するように思えてならないが、どうであろうか。

色盲の治療は専門医学の立場からも甚だ困難なものであると聞いている。それに比べれば、社会疾病の治療の方がまだ抜い易いだろう。然し一時的治療というなどにかく、根本的治療となるとこれは仲々容易なことではない。既に以前からアメリカで実施されているドライヴァー教育のような、その分野のための特殊教育も必要であろうが根本的には矢張り迂遠であっても相当の時日をかけ、上すべりに終らないような教育を徐々に浸透させる他はあるまい。教職にある身の責任を痛感する次第である。

〈クラブ紹介〉

バレー部

バレー部は男子十七名女子二十名計二十七名の部員からなる。顧問は吉田先生と谷口先生の二人である。

男子は運動場の西側のコートで女子は南館の東側のコートで、それぞれ練習に励みさいる。今ではきれいに整備されているが、創立当初は月の表面のようにでこぼこで、しかも石が多く、「回転レシーブ」など思いもよらなかったそうだ。練習風景は和やかで、いわゆる「階級制度」などあまり感じさせないが、それでも時々上級生が下級生にお説教をするらしい。

今日は部員の意見を聞かせてもらうことにした。ニチボーはりの練習方法については、「学生は勉強第一、あんなにやらなくてもよい」とか「実力に応じた練習をやればよい」とかいう批判意見に対して「強くなるためには必要」とか「技術は第一」としても、健全な精神を身につけるためには、大いに賛成」とかいう意見があり各自それぞれ意見を持っているようだった。

上級生と下級生との関係については、上級生がよく後輩を指導しているのでうまくいっているとのこと。「一年の女子の中にはもつと厳しくてもよい」という意見を出す人もいた。ひとつとうとう、うまくいっているというのは上級生が下級生に対して「優しい」すぎるのではないかとも思われた。

運動と勉強の両立という問題については、「なんとかしたい心配だ」という意見が出たが、できるだけ両立させてもらいたいものだ。運動をしているので、つい勉強がおろそかになる、というのは発生しきまい、とはつきり言える人が出て欲しいものだ。

最後に、今後の抱負について尋ねると、「全員が練習に参加、力を出し合つて、県大会に出場したい」ということだった。昨年、現に出場しているのだから、常時出場をめざすとともに、上位入賞をねらつてもらいたいものだ。

タイプ部

タイピスト、今の時代の花形である。会社、銀行でタイプを使つていないところはあるまい。技術革新の波に乗つて急騰してきたのである。

そこで、このタイピストを養成するタイプクラブを訪問して、その活動状況を聞くことにした。タ

イプクラブは、現在英文・カナ・とこわかれており、現在は女子ばかりで、男子二名を擁する大世帯である。時代の要求に敏感な先生方だろう。

土曜日なので、他の文化系クラブは活動していなかつたようだが、このクラブは活動していた。

—男子がいるとは分かないですね。

「大歓迎致しますから紳士方もどうぞ。」

—入部した動機は？

「経験してみたかつた。」

「就職に役立てたい。」

「二年生になると必修になると聞いたから。」

—クラブの成績は？

「去年十月の全商検定では、一級以外はほとんど合格。本校の合格率は大変よい（特に強めて）そうです」と明るい表情。

また、東京の検定でも、基本課定はほとんど合格したということである。これらの好成績は、顧問の中川先生、大田正巳先生の熱心な指導と、部員の努力のあらわれである。

—タイプを打つている時の気持ちはどのようなものですか。

「もう夢中ですから……。」

「絵をえがく様要を必要とし、そして、技術も必要」とするタイプクラブ。インタビューにも心身ともに、てくれて、南校舎二階のタイプ室は明るい雰囲気が漂っていた。

今後の活躍が大に期待されるタイプクラブの健闘を心から祈つてインタビューを終えた。

先生の熱心な指導と、部員の努力のあらわれである。

—タイプを打つている時の気持ちはどのようなものですか。

「もう夢中ですから……。」

「絵をえがく様要を必要とし、そして、技術も必要」とするタイプクラブ。インタビューにも心身ともに、てくれて、南校舎二階のタイプ室は明るい雰囲気が漂っていた。

今後の活躍が大に期待されるタイプクラブの健闘を心から祈つてインタビューを終えた。

〈できたぞ！ボーゲン〉

第一回スキー教室

長野県細野スキー場

本校初のスキー教室は、スキー基礎技術の修得、雪国の自然に親しむ組織の理解、集団訓練を通じ相互の理解、協力心、計画性、気候に対する抵抗力を高めようとする目的のもとに、去る一月四日から二日まで、長野県細野スキー場で開かれた。

生徒四十三名、先生方六名及びコーチ一名、計五十名の一行は、校長先生や他の先生方に見送られ四日夜八時、バスで浜松を出発した。

細野に着いたのは、翌朝六時。朝食をすませ、宿に、咲花スキー場へ行く。同スキー場は狭く、急な斜面で、初心者がほとんどの本校生徒には不向きであつたが、その日の都合により、そこで練習は開始された。

まずスキーをはくことから、はいたとたん転ぶ者が続出。

次は正式（？）な転び方、方向転換、登り方、そして直滑降。

完全に信言えないが、大体これらの事をマスターしたところで、この日の練習は終了。宿の人達はとても親切だつた。

翌六日は、雲一つないすばらしい青空に恵まれ、絶好のスキー日和であつた。

リフトからかがめた白馬三山の美しい姿に、参加者皆が、深く心を打たれたようであつた。

人、人、人で雪肌が見えない位に混雑した咲花スキー場。ここのスロープはたくさんだ。はちきれんばかりの若人のエネルギーがムンムンしている。

さあ滑ろう！

やつと得た場所に二列になつて向かい合い、その中をひとりずつ順番に滑るのである。始めに直滑降。昨日一日滑つただけのことはあつて、なかなか見事なものであつた。が、中にはへつぴり腰でよろよろ、足が開いてスツテーンとし派手な転び方をしつている者もあつた。次はボーゲン。これは、片足に体重をかけて回転する技術だが、回り切れなくて列に突っ込んだり、体重をかけ方にそのまま倒れてしまつたり、皆の真剣な表情から察したところ、むつかしそうであつた。

こうして、滑つて転んでの楽しい二日は終わり、ケーブルカーに乗つて、白銀のスロープを去つた。七日朝九時雪国に別れを告げて、一路浜松へ向かつた。夜九時半帰着。

クラブの足跡

＊文化部＊

◇書道部
毫墨会にてクラブ展開催

◇美術部
美術部にてクラブ展開催

◇英文カナタイプ部
・月二回、一度、レッリーチームコンを実施
一週間に一度、課題を決めてテストを実施

◇家庭部
・月・二日
明治会館にて
テーブルマナーの講習会

◇地学部
立体地図の作成
岩石鉱物の薄片製作、及び顕微鏡観察

◇生物部
犬の骨の組立
ゾウリ虫の培養
生体の観察

◇地理部
パノラマ写真の作成（北校舎屋上より、三六〇度の範囲）

◇合唱部
三月十八日
可美中にて発表会

＊運動部＊

◇剣道部
一月二十一日　新入戦
横須賀　5－0　浜南
小笠園　4－0　浜南
初段者　六名

◇サッカー部
毎週土曜日、鈴木自動車のコーチの方から指導を受ける。

◇柔道部
一月二十日　新入戦
・年　浜南－浜西（二分）
・年　興誠－浜南
浜南－周智農林

職員室だより

気象庁の報道によると"春一番"はバレンタインの二月十四日にやつて来たというのになかなか腰かけようとしてくれない。しかし腰の軽い女性の頃との噂から春もすぐそこまでかも知れない。

学園の職員室に目を向けて見ると、あちこちに春が来ている春は何と言っても花だ。職員室の机の上ほつぺほつぺと、小さな花びん花がかざられている。今朝もフリージヤが一輪新しくかえられていた。

しかし誰が花をかざってくれるのだろう、ということが職員室の一角で話題にのぼったことがある。ちなみに花のある机を数えてみると六つで、児玉、太田（正）、白井、木村、植田、宇治野の諸先生であることがわかつたので、近くに問合わせた宇治野先生にきいてみた。すると先生は、実は僕もわからないんです。と少し頭を紅潮させるばかりであつた。

とにかく、このフリージヤの花のようにけなな、美しい心の人がいて、ある朝そっと花びんをかざって待つてくれるのであろうか職員室にとつてうれしい出来事である。

かざられた新しい花を見て、伊藤生活主任が増田先生と、野崎先生に言つた。

「あんたらはどうして花をかざらんたん？」

「花びんがひつくり返ると大変だからいいませんよ。」と野崎先生。

「僕の机の上はかざる余地がないですよ。」と増田先生。たしかに先生の机の上は教科書、ハンギン、カツパツクスできつしりだ。

「あんたらそんなこと言つて負け惜しみと違うか？」

増田先生に言えば職員室は勉強室でもつて知られているが、昨年の春一大決心をせまられたことがあつた。「アメリカーナ」というアメリカから出版されている図鑑を買うべきか、買わざるべきかという決断にせまられたのであつた。先生によつて、この図鑑を買うということはこれからの勉強をバリバリ実行しなければならないということを意味した。勿論十五万円という金額のことも考えた。が、先生はセールスマンを前において二時間考えた。そんなものを買つてもどうせ読まないんだからと、南畑先生は忠告した。しかし増田先生は手五百米を走つている時の表情——ああ苦労を見れもかんでは吐き出して走る努力よ——で決断を下した。

「よし買う。そしてバリバリやるぞ。」

この頃から先生の愛称がカツパからバリバリになつたとかならないとか。

いつも考へて美しい両合先生が職員会議で面白い発言をされたことがあつた。昼食に学校のパンを食べてそれが原因で腹をこわしたことがあるかどうかということに関してであつたが「生徒の中にはトイレに行つたあと指先を二センチか五ミリぐらい洗うだけですましているんですね。それでお腹をこわしたと言うんではパン屋さんがかわいそうですわね。」

一センチか五ミリという表現が全く先生らしく、あの場合ぴつたりしていた。

最近天野、川福の両先生が自動車学校に通い始めた。また始めたばかりで、川福先生の言葉を借りれば「車が動いてくれる」段階だそうだが、新学期の始まる頃にはきつと卒業証書を手にして凱旋することだろう。卒業証書というものは「安易にもらえるものではないからだ。事実川福先生は最近時々胃の調子が良くないと訴えることがある。その胃の変調はどうも自動車を習い始めた故らしいというのだ。その筋では先輩の山田先生も教習所へ通学中は食欲もなく睡眠も充分でなかつたといつている。何しろ教習所では教授から足をけとばされ、手をぶたれて、汗を流しながら練習するのだろうが天野先生も川福先生にほいい薬——少しは苦いかも知れないが——ということになろう。

＊編集後記

三十九年度も終りに近づきましたが、ここに南高新聞第二号を、皆様の手元にお届けいたします。第一号は部数が都少されましたが、内容の方は、充実していると確信しています。

●原稿募集
作文／漫画／俳句／詩
新聞部

写真　ポートレート・受験
大関写真館
浜松　カジ町　柳通り
Tel（2）5029

あかるい視力で
あかるいくらし
メガネの足立
ADACHI
浜松市紺屋町
TEL ② 5029

装い
高級婦人服地／東京プレタポルテ／高校婦人洋品
呉楽屋
TEL（代）② 0156

運動用品と服装は……
ハカマタスポーツで
鴨江町店／電話 ②2522・③3056
伝馬町店／電話 ③ 3374

御通知次第早速参上致します
通学には是非
〈自家既製服定価〉
純毛黒ギャバ地　上下　Y 9,000
純毛黒サージ地　上下　Y 7,700
帝人テトロン市価 Y4,180を　特価 Y3,350
〈御注文服定価〉
純毛黒ギャバ地　上下　Y10,000
純毛黒サージ地　上下　Y 8,300
黒紺色カシドス地　上下　Y11,000　その他女子制服調製
特約店　大森洋服店
浜松市佐藤町 TEL ② 3277

毎日一回
パンとケーキ
みつわパン
浜松市板屋町498
TEL ② 2332・③ 2493

祝入学
カバン＊ランドセル＊旅行ケース
専門店　マツヤ
浜松市鍛冶町大通り
東洋劇場東店　TEL②5024
八丁通外山ビルTEL②3817